**説教20240310サムエル上16：1-13ヨハネ9：1-13「見えるものではなく、見えないものに」**

**主なる神は、私たち人間に見えるものだけではなく、見えないものも造られました。そしてその世界の中に、私たちを置かれたわけですが、実のところ、私たちの周りには、見えないことの方が多いのではないでしょうか。**

**人の心は見えません。明日と言う日も見えません。遠くに行ってしまった人の顔は見えません。そして日本と言う国も、実は見えるものではない想像上の国かも知れません。**

**こんな風に挙げていきますと、見えているものと見えてないものの境目もはっきりとしなくなるようです。私たちは、実際、自分が見たいと思うものを無意識のうちに選び出して、それを見たと思っているだけかもしれません。**

**一生のうちで、たとえばナイアガラの滝は見てみたいとか、ミロのビーナスだけは見ておきたいと言った願望などのことを想イマスト、私たちは見たい、という思いによって見るのです。**

**私たちは、この地上を去った後は、当然、見えない場所へと導かれますが、その見えない場所のほうが、今の見える世界より全然、深くて広くて長いことが予感されます。その見えない場所では、最早、ナイアガラの滝や、ミロのビーナスを見てみたいと言った願望は小さな事になるのではないでしょうか。**

**聖書には、私たちがその見えない場所へと導かれた時に、聞くべき御言葉が沢山記されています。その中でもわかり易い御言葉は、聖書の最後のほうに記されている、**

**わたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。という御言葉でしょう。**

**夫のために着飾った花嫁のように、という喩えは、ミロのビーナス以上の美しさをたたえた、聖なる都エルサレムの美しさを言い表しているのでしょう。こうして、最後の時に入れられる神の都エルサレムの美しさを慕い求めて、それを実際に見てみたいという願望は、今、地上にいる私たちが、今から追い求めていることに他なりません。**

**クリスチャンでない方には、ひょっとしたらそんな目に見えない神の都を慕い求めるなどという事はナンセンスで意味がないと思われるかも知れません、が、そうではないのです。そのことを悟るために、私たちは聖書に記されたイエス様の御言葉に聴いて参りましょう。神の御言葉と言っても、人間にもわかるようにイエス様は語られていますので安心して下さい。**

**サムエル記上 16章 7節**

**しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」サムエルという預言者は、誰が次の王様にふさわしいかを兄弟たちの中から選ぶときに、容姿や背の高さに注目して、選びました。これはよくあることで人間である私たちが大概行っていることです。すなわち、外見のカッコよさや美しさに注目して、人を選ぶという事です。でも、主イエスが選ばれるやり方はそうではないのだと、主イエスは言われます。**

**「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは、人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」**

**「主は心によって見る。」何とも味わい深い御言葉です。**

**主イエスは私たちの心を見ておられます。私たちの心は主イエスによってみられています。**

**そして私たちは、主イエスを信じて、ますます主イエスのものとなればなるほど、自分自身も、主イエスの様に、心によって見る者へと変えられていく事でしょう。**

**それからこの兄弟たちの中で次期の王様として相応しいとして選ばれたのは、末の子で羊の番をしていたダビデでした。彼は決して容姿や背の高さに優れていたわけではありませんでしたし、そもそも、王様の候補にも挙がっていなかった残りの者でありました。でも彼は、血色が良く、目は美しく、姿も立派であったので、主は「立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ。」と言われて、このダビデを選ばれたのでした。**

**ダビデは血色が良く、目は美しく、姿も立派であったというのは、内側からにじみ出てくるような美しさのことなのでしょうか。その美しさとは、外ズラを飾るような美しさでないことは確かでしょう。**

**ダビデ王はこうして主によって選ばれ、イスラエルの王様となりました。先のサウル王は悪い王となり、ダビデ王は善い王様となりました。ダビデという人は主イエスから見て、美しい人だったので、王様に選ばれたのでした。**

**ひるがえって今の地上の世界でも、選挙において、美しい人が政治家に選ばれる、と言う観点がもう少しあっても良いのではないでしょうか。そうすれば、私たちが、この地上で見たいと思う美しい物事が今よりは増えていくのではないでしょうか。**

**それでは新約聖書を見て参りましょう。**

**福音書と言うのは、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの４つがありますが、この福音書には、主イエスがこの地上を実際にお歩きになった時の御言葉と行いが記されていて、聖書の中でも特別な書物です。福音書では、神の御言葉としての主イエスの言葉が、弟子たちなど目に見える人間に向けて語られています。つまり、主イエスと人間達とが、この地上で会話をしたのでした。**

**ヨハネによる福音書9章 2節**

**「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」**

**皆さま、この弟子たちの質問をどう思われるでしょうか。少なくとも今の時代の常識から反しているなあと思われるのではないでしょうか。今、目の見えない人たちが嬉しく思うのは、周りの人から特別扱いされず、その都度必要なサポートに恵まれるという事だそうです。**

**でも、この時の弟子たちには、そう言う見方は無いと言ってよいでしょう。つまり弟子たちはその時代に縛られ、場所に縛られ生きていたという事です。そして目の前にいる主イエスさへ、ラビ、これは当時の先生の呼び名でしたが、イエスをラビと呼んで一人の教師扱いをしていたのでした。**

**この弟子たちの質問に対して主イエスは次の様に答えられました。**

**9章 3節**

**イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」**

**私たちは、この主イエスの御言葉を聞いて、たちまち、場所と時間に縛られた人間としてのイエス様から、それらから解き放たれている神様としての主イエスのことを覚えずにはいられません。**

**ここにはラビとしてのイエスではなく、神さまとしてのイエスがおられるのです。**

**私たちは、今、主イエスが天に居られて、聖霊を送ってくださっていると信じて、この地上を歩んでいます。ですから、今は私たちの目に、主イエスの姿は見えないのです。**

**あるとき、子ども達に、今、イエス様の姿は見えませんが、イエス様はどこにいるでしょうか？と質問したところ、或る幼子が自分の胸に手を当てながら、この中にいると答えてくれたので、うれしかったですが、私たちの信仰は将にそう言う事であります。**

**弟子たちはこの時、ラビであるイエス様に、大変熱心に質問をしたわけですけれども、イエスはこの弟子たちの質問には答えませんでした。そしてその答えよりもはるかに、深くて広くて長くて、美しい御言葉を、弟子たちの心のうちにお恵みになったのでした。**

**それは「神の業がこの人に現れるためである。」という御言葉です。**

**それから実際にこの目の見えない人の上に主イエスの神の御業が働きました。イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになりました。そして、「シロアム――『遣わされた者』という意味――の池に行って洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来ました。**

**これらのことが実際に、この地上で行われ、この目の見えない人は、イエスの御業によって目が見える人へと変えられたのでした。**

**この様にして、神の業がこの人に現れましたが、私たちは、医学的にこの人の目が治ったということ以上に、今日の説教の初めに戻って「主は心によって見る」という事に思いを致したいと思います。**

**私たちはこの地上を離れた後には、見えない場所へと導かれ、心によって、聖なる都が、夫のために着飾った花嫁のような美しさでやって来るのを見るようにされます。そこでは今、地上で目に移っている光景以上の事が見えるようにされるのでしょう。**

**この目の見えない人はこの時イエスの御業によって、心によって見る人へと変えられたのです。**

**皮肉なことに、この人は、目が見えるようになってから、ファリサイ派の人々の処へと連れていかれ、尋問されるなど、周りの人から、冷たくされ、けなされはしましたが、決して歓迎されることはありませんでした。ここらへんに、見えるものに縛られ、見えるものしか見ようとしない私たち人間の罪があらわれています。**

**しかし、このかつて目が見えなかった人は、周りの人にどう扱われようが、主イエスによって救われています。それは、この人の中に、主イエスが住んで下さって、彼の心の目を開いてくれたからに他なりません。この人は、人々の「その人はどこにいるのか」と言う質問にあっさり「知りません」と答えていますが、この時イエス様は、確かに、この人の心の中に居て下さったのでした。**

**今の地上で、イエス様の姿が見えないという事は、かえって私たちの日々の業を豊かにし、限りなく祝福して下さるもとになっています。イエス様の姿が見えないことで、私たちは現実の場所と時間とに拘束されることから自由にされるのです。**

**まもなく、この地上に美しい桜の花が咲くことでしょう。私たちはその美しさを十分に楽しみつつも、その目に見える美しさに魅了されて、立ち止まってしまうのではなく、いつも、見えないイエス様に心の目を向けて、十字架の道をひたすら歩んで参りましょう。**

**祈り**

**父なる神よ、私たちに見えないものと見えるものとを恵んで下さり有難うございます。私たちがそのどちらをも大切にして、豊かな交わりの内に、この地上を歩んでいけるようにしてください。**

**東北の大地震から１３年の年月が流れました。多くの愛する方々が、見えないところへと行かれました。どうか、地上に残されたもの、去られたもののどちらをもあなたが豊かに祝福して下さい。**

**私たちの生涯は、この地上で終わるわけではありません。私たちが目標を最後に置き、遂には、今は目に見えない、美しい神の都に入れられることを待ち望むことが出来ますように。**

**空気の暖かさが増し加えられ、花々が咲こうとしています。どうか私たちが、この移ろいゆく世にあって、つくられたものを慈しみながら、永遠なる御名をほめたたえていく事が出来ますように。**